

# 精華町教育委員会会議 議事録

令和6年（第8回）

1 開 会 令和6年8月28日(水) 午前10時00分  
閉 会 令和6年8月28日(水) 正午

2 場 所 精華町立図書館 集会室

3 出席委員 川村教育長 松下教育長職務代理者 新司委員  
井上委員 高岡委員

4 欠席委員 なし

5 出席事務局職員

松井教育部長 有城総括指導主事  
田原学校教育課長  
川畑学校教育課担当課長(防災食育センター長)  
小笠原生涯学習課長  
上野生涯学習課担当課長(図書館長)  
平井学校教育課課長補佐

6 傍聴者 0名

7 議事の概要

(1) 開会及び冒頭あいさつ

教育長から第8回教育委員会会議の開会を宣言。

(2) 第7回教育委員会会議議事録について

教育部長から令和6年第7回教育委員会会議の議事録について説明。

**【採 決】**

・全員承認

(3) 教育長報告事項

7月26日に文化財保存活用地域計画の作成協議会があった。本日は、同

協議会を通して作成作業は順調に進んでいることのみ報告する。

8月7日、8日に精華町少年少女合唱団の合宿があり、合宿で練習した成果を11日に京都こども合唱祭で発表した。今年度も大変美しい歌声を披露してくれた。

8月22日、23日に、京都府町村教育長会で滋賀県愛荘町に出向いて研修会を開催した。40分授業に取り組む小学校の実践報告や町立図書館の見学という内容だった。

#### (4) 議決事項

議案第20号 令和6年度精華町議会定例会9月会議提出議案に係る意見聴取について（令和6年度精華町一般会計補正予算（第3号））

#### 教育部長【提案説明】

教育に関する補正予算として、10款、教育費、2項、小学校費、1目、学校管理費の小学校管理運営事業において927万7,000円を追加計上している。今年度精北小学校では、既設の高圧受電設備が老朽化しているため、設備の機能維持を目的として、劣化が著しく故障の可能性が高い部品等の交換による改修を予定していたが、実施に向けて精査したところ、必要となる部品などが製造終了により調達が困難な状況となったことが判明した。その一方、製造から20年以上が経過している現在の設備は最新の機器と比較してエネルギー効率が低いため、最新の機器への更新を行えば省エネ性能の向上による電気料金の削減も見込まれることから、当初計画を変更し、部分的な改修ではなく高圧受電設備の設備一式を更新することとしたもの。

なお、今回の補正額927万7,000円のうち830万円については地方債を事業費に充当することとしている。

松下委員 設置から20年が経過し、部品が製造終了しているということなので仕方がないことだとは思いますが、計画時点で何年経過しているかは分かるはずなので、当初の予算の組み方が気になった。私も中学校で管理職として勤務したときに、建築年数が古い学校についてはインフラ関係の設備の不具

合が次から次へと発生していた。様々な災害などが起こったときにはインフラ関係の設備が正常に稼働するかは非常に重要なポイントになるので、法的に検査しなければならない箇所はもちろん、それ以外の箇所についても、改めて複数年かけてでも丁寧な調査を行って、予算を組むように努めてほしい。

学校教育課長 松下委員のおっしゃるとおりである。今回のキュービクルの改修方針については、部品・部材によって15年から20年の耐用年数がそれぞれ設定されており、日常の点検管理の中で法定点検のサイクルや耐用年数などをしっかりと把握した中で、管理を進めていきたいと考えている。

(採決 ー 全員挙手により原案どおり決定)

議案第21号 令和7年度以降に精華町立中学校において使用する教科用図書の採択について

教育部長 【提案説明】

令和7年度以降に精華町立中学校において使用する教科用図書として、教育委員会の採択を得るために提案するもの。

採択協議の進め方については川村教育長にお任せする。

川村教育長 採択協議の進め方について説明させていただく。まず私から、山城教科用図書採択地区協議会の内容なども踏まえながら、基本的な事項について説明する。その後、教科種目ごとに総括指導主事から選定結果のポイントについて説明させていただく。その説明後、各委員からご意見をいただく形で進めたい。

なお、採択については、全ての教科用図書の説明と各委員から意見をいただいた後に一括して行う。

今回採択を予定している教科用図書は、令和7年度から10年度までの4年間、山城採択地区において使用するものである。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により、共同採択地区として設定されている山城地区の公立

小・中学校は同一の教科用図書を採用しなければならないことから、去る7月31日に第2回山城教科用図書採択地区協議会が開催され、京都府教育委員会から示された採択基準と基本観点をもとに協議が行われた。今回の採択に当たっては各教科と特別の教科（道徳）について、それぞれ3つの採択基準と7点の基本観点が示されており、これらの京都府教育委員会の採択基準を踏まえて、教科別調査委員会において調査研究が行われた。調査研究は申請のあった全ての教科書について行われ、その結果が山城教科用図書採択地区協議会教科用図書調査報告書としてまとめられた。この報告書に基づき、代表調査員から教科ごとに報告を受け、採択地区協議会の委員20名の出席により協議が行われた。なお、本町からは委員として、私と松下教育長職務代理者が出席した。

協議に当たっては先ほどの採択基準に加え、山城地域の課題を踏まえた4つの観点についても加味した上で協議し、選定が行われた。

1点目としては、山城地区において学力向上が大きな課題の1つであり、特に児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図るための配慮などがあるかという学力向上の観点。

2点目としては、教育を取り巻く多様な価値観がある中、公教育として多種多様な意見がより反映されているかという、公平性の担保の観点。

3点目としては、管内教員の若年化に伴い、授業の質を担保する上で、若手教員でも授業で使いやすいかどうかという観点。

4点目としては、児童生徒が親しみやすく使いやすく、そして主体的・対話的に学習に取り組むことができるかどうかという観点。

これらの4点とともに、法定展示や各巡回展示の中でいただいた多くの意見も参考に協議が行われた。

協議の結果については、教育部長から提案説明のあったとおりである。

それでは、教科種目ごとに総括指導主事より選定結果のポイントについて説明させていただいた後、委員各位の意見をいただきたい。

#### 【国語】光村図書出版

総括指導主事 選定された光村図書は、全体的に表記・表現の工夫、ユニバーサルデザインという観点と、色彩の配色という部分で非常に見やすい配色系列になっている。教材に関連した資料を領域別にまとめている点も特徴の1つである。基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る観点で、言葉を丁寧に多角的に生徒が考えられるところに焦点を当てており、また、思考や分析を深めるための話し方や表現が示されており、自分が伝えたいことに適した表現を探す支援になると考える。さらに新教材として最多の21の教材を導入されている。書くこと・話すこと・聞くこと、単元で学習活動の流れが詳細に示されているので、学習の流れが整理されており、理解しやすくなっている。

松 下 委 員 国語は、各教科書ともに学習指導要領に沿った内容で、検定を通っているので、どの会社も丁寧に作られていた。特に、不登校の子どもや、発達障害を持った子どももいるので、そういった点を考慮して丁寧に作られていることが理解できたし、また、教員の若年化に伴って丁寧な教科書が必要とされている点、その大きく2つの観点で検討してみた。

総括指導主事からあったように、基礎・基本についてもやはり光村図書が丁寧に詳しく書かれていたし、特に「思考の地図」という思考ツールは、20年ぐらい前からはやり出したので、三省堂と光村図書にあったが、特に光村図書がしっかりと作られていた。

また思考力・判断力の関係では、来年1月から大学入学共通テストが変わる予定で、以前に文部科学省が出した国語の例題が横書きだったため、その意図を汲んだのかは不明だが、光村図書は「学びの扉」という学習の流れを記載するコーナ

一では横書きを採用しており、非常に見やすかった。また、「学びのかぎ」というコーナーで、学習のポイントが各学年別に整理されていたことは評価できる。

学習指導要領に示していない内容で言えば、私が光村図書で一番感心したのが学年別に作られた「語彙ブック」である。例えば、新聞報道の記者や政治家などが話されるときに、語尾に「思います」や「状況です」などの決まり文句を付けて話されていることをよく見るが、「語彙ブック」にはそういうことではなくて、あることを表現するにはどのような言葉を使えばよいのかを丁寧に説明しており、コミュニケーションを行うにあたって非常に便利に活用できるだろう。

表記・表現の工夫としては、光村図書の教科書の色合いが白地に青であるのに対して、他社の教科書は白地に赤であり、比較すると光村図書は非常に見やすかったのが印象的だった。

以上から、私も光村図書を推奨する。

#### 【書写】光村図書出版

総括指導主事 選定された光村図書は、学習のポイントが明確に示されており、付属の書写ブックがあることで、学習ポイントの練習が確保できるようになっている。書写では書くことばかりに専念させてしまいがちだが、話合いの機会を明確に示されている。2次元コードを読み取ることによって、運筆等をタブレット端末で直接見ることができるようになっている。ユニバーサルデザインフォントで見やすく、日本地図を用いた全国文字マップという真新しい内容もある。

高岡委員 対象の4社とも動画を活用する形になっていて、使いやすく、分かりやすい解説だったが、特に教育出版に関しては、写真を多く使っていたので、動画を見なくても教科書のみでも分かりやすかった。しかし、学習の流れなどトータルで考えると、振り返りの目標がチェック式になっている光村図書が優れていると思った。

## 【社会科（地理的分野）】帝国書院

総括指導主事 選定された帝国書院は、単元で導入・学習課題・解説・課題追求をするページがあり、そして、まとめるという流れで構成されており、それぞれ見開き2ページで、1テーマ1時間の授業を行えるような構成になっている。地図帳活用という見出しが随所に設けられており、教科書に掲載されている地図だけでなく、繰り返し通常の活用を促す工夫があり、学習の見通しを立てて主体的に学ぶような配慮がある。

2次元コードが随所に掲載され、様々な資料やワークシートを活用し、生徒が主体的に学ぶことができる工夫がされており、オリジナルの動画や外部サイトにつながり、興味関心を持って学ぶことができるようになっている。

写真が大きいことや、特設のテーマ、学習のページ、対話を促す工夫がされている。学習の見通しを立てて主体的に学ぶよう配慮されている。

川村教育長 帝国書院の教科書は、よい点として、写真が大変大きく、クリアで美しいと感じる。非常に鮮やかで手抜きを感じさせない写真が使われている。やはり地理は多くのことに興味を持って、どんどん知識を広げていく教科書であると思っ  
ているので、その観点から見れば、写真だけでなく図表もよく、特に地図が随所にはめ込んである点は効果的であると思った。

他にも、地図帳を活用した学び方や、地理的な見方・考え方、考えを整理する方法、これらが3ページにわたって学び方として表現されており、これをうまく活用するとアクティブで、かつ効果的な学びを築くことができるのではないかと  
思った。そういった点で、地理の理解の仕方を深める教科書として帝国書院のものが一番優れているのではないかと考える。

## 【社会科（歴史的分野）】帝国書院

総括指導主事 選定された帝国書院は、ウェブコンテンツが充実しており、中でも随所に設けられた「タイムトラベル」という項目では、



各時代を視覚的にイメージしやすいよう工夫されている。また、各章のはじめに学習する時代の見通しを持たせて、章末で見通しを振り返らせることで、生徒が何をどのように学べばよいかという配慮が施されている。カラー資料も豊富になっており、学習者が学習内容を理解しやすいように工夫されている。

川村教育長 総括指導主事の説明にあったように、「タイムトラベル」のページは大変よいと思う。その時代の人々の暮らし、町や村の様子を具体的に伝えるよう掲げてあり、中学生がその時代をイメージする上で大変効果的ではないかと思う。

もう一つ、帝国書院にある時代区分ごとの「学習を振り返ろう」もとてもよいと思う。歴史の大きな流れと、歴史的な見方・考え方を養う配慮がよくなされていると感じる。章のはじめの「章の問い」、節のはじめの「節の問い」、項目ごとの学習課題が設定されていて、目当てや課題意識を明確に持った学びを促す手立てとなるので、よい工夫であると思う。

「世界とのつながりを考えよう」という見開きの地図と解説が、8世紀の遣唐使の時代、13世紀のモンゴル帝国の時代、そして16世紀の大航海時代、日本では戦国時代だが、我が国の歴史を世界情勢の中で深める上で、世界情勢を一目で分かるようにしてあって、非常に工夫されていると思った。

さらに「歴史を探ろう」というページであるが、過去の人々の暮らしなど、歴史の表に出にくい民衆や、中央から遠い地方の状況を具体的に知ることができる内容がまとめてある。例えば、江戸時代の長屋の断面を描いて、そこでの暮らしを説明したり、アイヌと琉球について2ページを割いて記述している。

感心したのは、太平洋戦争時の東南アジア地域の日本軍による占領について、帝国書院は、現地の人々の今日における評価、これを正しく伝えるために、インドネシアで使われている教科書の記述をコラムにして紹介している。内容は省略するが、評価が分かれる太平洋戦争の位置づけに関して、日

本からの視点だけを述べるのではなくて、現地の教科書の記述を用いるという教科書執筆者の工夫であると捉えた。

また、今回、令和書籍の「国史」という教科書が検定に通り、話題になっているので詳しく見てみたが、この教科書は「世界各国王朝略年表」や、神話の内容を含む歴代天皇の皇位継承図を掲載するなど興味深いとも言えるが、できるだけ史実を伝えるべき教科書にこの図を用いてよいのかという点で疑問を感じた。しかし、他の教科書では見られない重要な視点や指摘であると思う内容が随所にある。例えば、日本とアメリカとの開戦に至る経過や、終戦に至る経過などがかなり詳しく書かれている点などは、他の教科書にはない特徴だと感じた。

#### 【社会科（公民的分野）】 帝国書院

総括指導主事 選定された帝国書院は、各章の冒頭に「学習の前に」、章末では「学習を振り返ろう」を設定し、単元を通じた知識技能の習得を図る部分が見られる。「アクティブ公民」のコーナーで、活動の場面場面を設けられていること、自ら課題を発見し解決する能力を養う工夫が見られる。「公民プラス」や「未来に向けて」のコラムも多くあり、生徒の興味関心を引く工夫も見られる。

最後の単元が課題探究学習となっており、テーマを決め、課題について調べ、3年間のまとめ活動が行えるようになっている。各章末には、課題探究への準備があり、単に単元をまとめるだけではなく、課題探究学習に向けてのテーマを考えることができるように工夫されている。

松 下 委 員 私は2つの観点から検討してみた。1つは、学習指導要領では何が求められているのかということ、もう一つは、成人年齢が18歳になったことで、この民法改正は令和4年1月1日で施行されたので、改正後初めての教科書の改訂ということもあり、各社がどのようにそこを表しているのかということが気になった。

つまり、18歳成人になると、例えばローンが組めたり、アパートの契約ができたり、裁判員に選ばれたり、10年間有効なパスポートを取得できたり、その他いろいろなことが可能になるが、その反面、社会に対する責任がついてくる。そのあたりをどのように理解すればよいのかということである。

まず基本的な部分である、基礎・基本や、思考、判断、主体、他教科との関連等については、全ての発行者がしっかり理解して書かれていたが、特に、選定された帝国書院について顕著なところを挙げる。

1つは、各章の冒頭に必ず「学習の前に」という課題の意識を持たせる提示がされており、章末には必ず「学習を振り返ろう」という知識・技術の習得がある。また、先ほど述べた関係で「18歳への準備」というコーナーがあり、選挙と経済について意識させるような記載があった。なお、東京書籍にも同様のコーナーがあり、東京書籍には併せて人権についても準備が必要だと書かれている。

そして、総括指導主事から説明があったように、最後の単元として課題探究学習では、自分でテーマを決めてまとめていくことと、高校への準備ということがあり、次へのステップとして分かりやすいと思った。

新しい写真が多く使用されていた点も評価できる。

また、内容的にも制服の問題、そして、LGBTQ+などの他社にないことが載っていたし、中でも一番感心したのはSDGsの問題である。SDGsは2030年で終わるのだが、この教科書は来年2025年から2028年まで使用される。SDGsの次に何を目指しているのかということについて、この帝国書院では、ネクスト2030というテーマで若干触れられており、次を見ているなど感じたので、今の時代にふさわしい教科書であると思う。

まとめると、過去と今と未来をうまく融合させているという点で、私も帝国書院がよいと感じた。

## 【地図】 帝国書院

総括指導主事 選定された帝国書院は、小学校での既習事項の確認や地図の種類、見方や使い方について分かりやすく確認がされている。また、巻頭の特集に、現代社会の課題として持続可能な開発目標（SDGs）に関することを取り扱っており、非常に丁寧に取り扱っている印象がある。

随所に地図や資料を読み取るための手がかりとなるポイントを問いかけるような形で示し、生徒たちが考えを深めていけるようなコーナーを設けてある。

自然災害・防災に関する資料が非常に豊富に掲載されているのが特徴である。

川村教育長 これまでから山城地区の中学校では、帝国書院の地図を用いているが、結論から言えば、引き続きこれを採択することが適当ではないかと考えた。同じ縮尺、同じ図法を用いたヨーロッパの地図で、東京書籍と比較してみたのだが、工夫は両者ともにされているものの、帝国書院のほうが、文字ポイントの大小の工夫など、見やすさという点でやや優れていると感じた。

また、帝国書院の地図には、ヨーロッパの地理をつかむ上でとても大事なことなのだが、第一次大戦前と第二次大戦前、第二次大戦の後、そして現在という4つ、これが今の国境にどのように影響しているかということを理解させることを試みる歴史的な地図がついていて、これは非常に工夫されていると感じた。

同緯度・同縮尺の日本が大陸図の横に描かれている箇所だが、東京書籍では6か所だったが、帝国書院は8か所あり、日本と気候を比較したり、大きさを比較したりするときにとっても有効であると思った。

最も感心したのは、帝国書院の教科書では、自然災害を学ぶためのページに4ページが割かれているのに対して、東京書籍は2ページだった。しかも帝国書院の地図は、地震を

起こすプレートについて見開きで示してあり、つい先日も南海トラフ関連で少し心配なことがあったが、巨大地震の発生のメカニズムについて理解することは、特に日本に暮らしていれば重要なことだと思うのだが、それがしっかりと示してあった。その他にも、例えば線状降水帯のメカニズムなども説明されている。

一方で、世界と日本の人口動態に関する説明などは、東京書籍のほうが優れていると感じた。

帝国書院も東京書籍も、随所に2次元コードを貼り付けてあり、端末で読み込むと関連する資料や動画を見ることができた。比較は難しいが、全般的に帝国書院の地図が見やすいと思われ、また、精華町の学校では帝国書院の地図を長年使ってきていることもあるので、引き続きこれを採択すればよいのではないかと考えた。

#### 【数学】新興出版社啓林館

総括指導主事 選定された啓林館は、デジタルコンテンツは教科書内に2次元コードで示されており、一覧が見られる2次元コードが巻頭にも記されている。各章の構成は、生徒の実情や習熟度に合わせて学習できるよう工夫されている。数学の利用場面では、問題設定、見通しを立てて問題解決、振り返って深めるなどの3つのステップを設置することで、学習過程が可視化されており、見通しを持って問題解決できるよう工夫されている。

井上委員 私も京都府教育委員会から与えられている観点で、各教科書を見させてもらった。7社あるが、昔に比べてどの教科書も非常に使いやすくなっている。以前の教科書には、一目見てこれは使いにくいという印象を受けるものが何社もあった。

例えば京都府では、山城と乙訓が啓林館で、南丹、中丹、丹後は数研出版、東京書籍、大日本図書というように分散している。もっと多いところもあり、例えば東京では7社のう

ち6社が採択されているので、かなりばらけているのではないか。シェアは啓林館が一番だが、そのような観点からいっても、ほとんど差はないと言えるが、啓林館でよいのではないかと思う。

ただ、第2回採択地区協議会の議事録を拝見したが、最初の方はほとんどデジタル関係の議論で、その後は、小学校では啓林館を使っているから中学校も啓林館にすればスムーズに指導できるのではないか、というような話に終始している印象を受けた。

全体に関わることで、例えば、前回の学習指導要領から数学的な活動ということが全面的に目標の中でも入ってきたのだが、そういった文言が使われている場面はほとんどなく、採択委員と調査員も、そういったことをどの程度理解、認識して選定作業に当たられたのかが議事録からは読み取れなかったもので、そういった部分が分かれば、採択にあたってもより参考になるのではと思った。

川村教育長 採択の調査の在り方についてのご意見を含めて、承知した。

#### 【理科】新興出版社啓林館

総括指導主事 選定された啓林館は、ICTの利活用でウェブアプリ、演習問題やワークシートなど、生徒自身による操作や記録が可能な多数のコンテンツに接続できるようになっている。また、2次元コードによる繰り返し学習ができる特徴があり、動画による問題も掲載している。さらに、生徒の探究意欲を高める工夫がされて、課題解決的な学びのための振り返りができるような学習活動が設定されている。各端末に観察・実験などを通じた探究学習を、生徒一人一人が主体的に行えるようになっている。用語解説が豊富であることや、表記・表現の工夫では、発達段階や学年移行を考慮し、文字の大きさを変更する工夫も行っている。全体的な配色、図や写真、絵と本の割合で適切な読みやすさがある。

松下委員 理科も2つの観点から検討してみた。1つは学習指導要領

との関連、もう一つは今の時代に何が求められているのか、それが理科とどのような関係があるのかということである。

今、いつ何が起こるかを予測することが非常に難しい時代になっているが、一旦何かが起これば、それに即座に対応する能力が求められている。その能力を身につけていくことが、小学校、中学校の教育の基本的な目的なのではないだろうか。

社会生活の様々な場面で、ある目標を立てて、その目標と現状との差が課題となり、その解決のために何をすべきかを考える、という一連の流れを繰り返し行うこと、これが、理科という教科の有り様によく似ていると思う。

この一連の流れがいわゆる探究学習だと思うのだが、東京書籍、学校図書、教育出版、啓林館の4社は、そういった点がうまく盛り込まれていた。

また、やはり子どもにとって分かりやすい教科書であるためには、国語でも言ったように、子どもによって様々な生活の形態があるので、家にいても努力すれば自学できる教科書であることが重要という観点もあり、各社工夫されていた。

全体として、2次元コードも含めて指導者にとっては指導しやすい、使いやすい教科書になっている印象を受けるが、東京書籍については、指導にあたり先生の力量が求められるように感じた。逆に、その点でバランスが取れているのが啓林館ではないかと感じる。

理科は道徳、地理、美術、技術・家庭など他教科との関連があり、中でも数学とは密接な関係があるため、その観点から見てみると、教育出版と啓林館の2社がうまく数学・算数との関係をつくっていた。

また、実験・観察は理科の中では外すことができない重要なものだが、教科書によって実験の数が大きく違うことに気がついた。一番多いのは学校図書の88時間で、中学校3年間で理科は385時間あるのだが、その約22.9%が実験・観察の時間に充てられるという突出した状況になってお

り、選定された啓林館は5社のおよそ平均値となる74時間、約19.2%だった。なお、東京書籍と大日本も啓林館に近い時間数だった。

デジタルコンテンツの掲載数の最多は東京書籍の750か所で、啓林館は次点で587か所だった。内容豊富であり、これを参考にすることで、様々な器具の扱い方が理解できるだろうと感じる。

特に、新しい用語が多く出てくる理科という教科では、その意味が全く分からずに次に進んでしまうことは非常に危険であり、用語解説ですぐに意味を調べられることには大きな価値があると思う。用語解説の数は、少ない会社が400個程度にとどまるのに対して啓林館は757個であり、この点では啓林館が優れていると感じた。

全体的な配色、図、写真などのバランスも啓林館がよかったし、何より、全体の印象に大きく関わる表紙のデザインが、自然に子どもの気持ちに入っていくようなものになっており、好印象であった。

#### 【音楽（一般）】教育芸術社

#### 【音楽（器楽・合奏）】教育芸術社

総括指導主事 選定された教育芸術社は、生活や社会の中の音楽に結びつけた形で大変適切に表現がされ、題材の狙いを明確にしている。歌唱の共通教材については、心の歌でこれからも歌い継いでいきたい歌という形で示されている。器楽教材とともに、歌唱教材や鑑賞の教材と創作教材との関連をつけながら、いろいろな教材が組み込まれていて、大変幅広い教材が使われていた。また、器楽特有の奏法、所作まできちんと明確に示されている。内容や構成が学習指導を進める上で、生徒が興味関心を示しやすく、学習する上では基本的なことが身につくやすいような工夫がされていることや、日頃生活をしていく上での音楽と結びつくような部分について、事細かに記されている。一般の教科書と器楽・合奏の教科書で大変整合性



が取れていて、使いやすくなっている。

2次元コードで楽曲の音源や、合唱コンクール等で伴奏の音楽が流れたり、パート別の音取りという音程を取るような練習ができるものも挿入されており、表現の上では大変工夫がされている。器楽でもいろいろなことが教科書だけで学べる工夫がされている。

新 司 委 員

比較して、教育芸術社が優れていると感じたことを述べたい。まず、教科書の巻頭に、現在活躍中の俳優や歌舞伎役者、ピアニストなどの中学校時代の体験を交えた、音楽と芸術の関わりがメッセージとして掲載されている。中学生にとっては人と音楽、社会と音楽との様々な関わりを知ることにより、学習に向かう意欲が引き出されるのではないかと考える。

次に、学習の内容では、「学びの地図」によって、自分が1年間教科書を通して身につけられる学力が一目で分かるようになっている。学習の見通しが持てたり、学びの振り返りをしたりすることができると思う。

「マイメロディー」、「レッツクリエイト」というコーナーでは、音楽の創作の手順が分かりやすく提示されていて、無理なく旋律の構成を考えたり、音楽をつくったりすることができるのではないと思う。また、分かりやすい紙面構成になっている。楽譜は1ページ、または2ページ見開きでとても見やすい。写真も効果的に掲載されている。簡潔にどんな歌、どんな曲なのかが必ず紹介されている。一例を挙げて説明すると、「浜辺の歌」では浜辺の状況が描かれた歌詞と、その様子を表す旋律、伴奏が特徴的な曲であるということが書かれている。

また、学習目標では、この教材を通して何を学ぶのかが明示されていて、意識を持って主体的に学習に取り組めるのではないと思う。例えば「浜辺の歌」では歌詞や旋律、伴奏から情景を想像して歌いましょうと示されており、また、学習目標に迫るための学習活動を例示している。8分の6拍

子で作られた旋律の特徴や、強弱の変化を生かして表現を工夫して歌いましょう、となっている。また音楽を形づくっている要素として、リズム、旋律、強弱、速度などの要素があるのだが、どの楽曲にも提示されている。

見開きの右ページの上部に、楽譜に使われている用語や記号の記載が必ずある。この「浜辺の歌」ではリタルダンド（だんだん遅く）、また全休符があることが明示されている。繰り返して用語、記号は記載されているので、子どもたちが学んでいくのに大変役に立つのではないかと思う。

また、考えたいポイントとして、問いかけをすることで、課題意識を持って学習に取り組む、深い学びにつながるような構成になっている。例えば「浜辺の歌」では歌詞に描かれた情景は文学にどのように表されているかということ子どもに思考させているという部分である。

2次元コードにより、パート別伴奏、ピアノのみの演奏で、音程を取る手助けとなるメロディーが流れるようになって、知らない曲を実際に聴くことができたり、また、創作ツールや楽器の模範演奏の動画などにアクセスできるなど丁寧なつくりになっているので、技能習得に役立つのではないかと思う。

「生活や社会の中の音や音楽」のページでは、音や音楽の果たす役割について考えたり、社会との関わりをより深く意識したりできるように配慮されている。音楽に関わる仕事を紹介され、文化をつくり出すという視野を広げていけるような内容になっていることに感心した。

## 【美術】光村図書出版

総括指導主事 選定された光村図書は、表現の題材と鑑賞活動の題材が分かるようにマークなどを工夫されながら表示されている。2次元コードが豊富で、鑑賞活動や表現が深められるような部分もある。特に美術の2・3年生の教科書では、和紙風の絵用紙が採用されており、様々な日本美術に焦点を当てた鑑賞

が設定されており、手触りも含めた工夫がされている。各題材が鑑賞から表現、そして最後に鑑賞という構成で、全ての題材が統一され、非常に分かりやすい構成であることや、別冊の資料は、中学校3年間に必要な資料がコンパクトにまとめられ、非常に分かりやすい内容になっている。

新 司 委 員 比較して、光村図書が優れていると感じたことを述べたい。教科書のほかに資料が1冊ついているのだが、資料は3年間使用できるので、学習と併せて資料の活用ができるのではないかと思う。

また、生徒の表現したいという気持ちを刺激するような内容のものが多く見られる。材料、用具の使い方、技法などが分かりやすく解説されていて、発想を広げたり構想を練るとき参考になるのではないかと思う。

学習の流れとしては、各題材のはじめに、観点別に3つの目標が分かりやすい文章で示されている。知識・技能、思考・判断力・表現力、主体的な学習に取り組む態度などがはじめに書かれている。

授業の見通しを持つことができるような紙面になっており、各題材が鑑賞から表現、そして鑑賞という流れで構成され、統一されている。表現と鑑賞を関連づけて学習することができる。

次に、生徒作品が多数掲載されていて、発想から表現、また制作過程での考え方や工夫が示されて、生徒たちが参考にしようとする、主体的な態度が促されるのではないかと思う。

また、美術2・3の教科書には、日本の絵画を楽しむ5つのキーワードというページがあり、特に和紙のような風合いの用紙で鑑賞できることは興味深い。鳥獣戯画や富嶽三十六景 神奈川沖南浦などは原寸大となっていて圧巻である。また、美術1の美術鑑賞を楽しむ手がかりのページには、美術作品をどのように鑑賞していけばよいか、その鑑賞の流れが示されている。鑑賞するときにじっくりと見る、考えなが

ら見る、調べる、感じたことをまとめるという流れで示されていて参考になる。

他の教科との関連では、美術科は心を豊かにする、生活を創造していく教育で、道徳教育と深く結びついているのではないかと思う。コラム欄で他の教科とのつながりを理解できるような内容になっているが、道徳科については関連が特に多い。キーワードとして、我が国の伝統文化の尊重、思いやり、感謝、公共の精神、相互理解などが挙げられている。

### 【保健体育】東京書籍

総括指導主事 選定された東京書籍は、導入で使える映像や、デジタルコンテンツが多く、動画学習ができる単元は、2次元コードが必ずページ下についており、全単元でタブレットを使用できるという特徴がある。また、活用するという主題形式に工夫が見られ、グループ協議につながるような発問が多くあり、章末資料には様々な発展的な資料、補足的な資料がたくさん載っている。

表記・表現で教科書に色分けがされていて、その色分けとともに、高さでも色分けされているので、すぐに開けやすく工夫されている。

新 司 委 員 人は誰もが生涯にわたって健康で安全な生活を維持して、心身ともに健康で生きがいを持って、豊かな生活を送りたいと誰もが願っているところだが、保健体育の深い学びが、将来の人としての生きる力となる、保健体育の学習を通して学んでいくのではないかと思われる。

東京書籍の教科書の特徴だが、教科書が章ごとに色分けがしてあって、高さも統一されているので、大変見やすい。体育編では1年から3年まで統一した色で表されている。なお、学年ごとに保健編と体育編で構成されているのだが、東京書籍だけが保健、体育という順番になっていて、他の教科書は体育、保健という順番で、学習指導要領に沿った形で表されている。

また、各章ごとに学習の内容が提示されているので、どんなことを学ぶのかがよく分かる。各章のはじめには、小学校で学習したこと、高校で学習することを関連づけて示しているので、見通しを持って学習することができると思う。学習の展開の仕方がよく分かる教科書だと思う。單元ごとに見つける、学習課題、そして課題の解決、これは、発問と本文資料になっているが、次に活用する、広げるという流れになっている。それぞれのステップに応じて発問が設けられているので、考えること、判断すること、学んだことを発表する活動が設定されて、特に「活用する」というところでは、自分自身が習得した知識・技能を活用して発表することが求められている。

2次元コードが多数あり、使用することで動画学習ができたり、また学習のまとめができたり、活用の範囲が広がっていくのではないかと思う。また、教科書の一番最後には、「巻末スキルブック」というコーナーがあり、健康や安全に関するスキルがまとまった形で提示されていて、とても見やすい。

実習では、リラクゼーションの方法、止血法、AEDの使用方法などが記載されていて、とても活用しやすいものとなっている。

また、各章のはじめには、保健体育の職業として、保健体育に関わりのある職業の紹介がされているので、キャリア教育の視点となっている。管理栄養士、車椅子エンジニア、スポーツアナリスト、薬剤師など9つほどの職業の方が紹介されている。

#### 【技術・家庭（技術分野）】東京書籍

総括指導主事 選定された東京書籍は、「最適化の窓」というコーナーが巻頭につけられており、技術の見方、考え方が分かりやすく示されている。また、学習の流れが分かりやすく示されている。写真、図、イラストで分かりやすく編集されていて、2

次元コードによる追加情報や資料が多く用意されており、基本ページの右上に全ページ掲載されている。同じ場所にあるので、分かりやすくなっている。

資料として一般の方のアンケートが載せられており、技術がどう生かされているか、取組内容が記載されている。

高岡委員 技術に関して、3社ともイラストや写真を使い、技術の学習の流れが分かりやすく解説されていたと思う。モノ作りの楽しさを見せつつ、発想の転換ができる内容になっていた。その中で1人1台タブレットで身近になった情報に関するページでは、セキュリティや社会で今問題になっている、情報に関する様々な危険性ということを知りやすくとまとめているという点で、東京書籍がよかったと思う。

#### 【技術・家庭（家庭分野）】東京書籍

総括指導主事 選定された東京書籍は、単元の配列について工夫されており、3年間のストーリーが出来上がり、指導もしやすく、生徒も理解しやすくなっている。実物の写真があるだけでなく、大きさや長さということが、量感として分かりやすい工夫があり、デジタルコンテンツも多くある。総合的にページの見やすさや細部の工夫、資料の工夫、学習のまとめが明確であるなど、分かりやすくなっている。

高岡委員 家庭分野においては、やはり3社ともイラストや写真などをふんだんに使って、カラフルな教科書になっていた。小学校の振り返りということが各社ともあって、復習しながら進めることができるという印象を受けた。身近な食をテーマにしているページを比べたところ、どの教科書にも様々なメニューがあったが、比較して、身近なメニューが多く、分かりやすい内容だったと思うので、東京書籍が優れていると思う。

#### 【英語】光村図書出版

総括指導主事 選定された光村図書は、各単元の冒頭に目標が示され、そ

の目標に向かって学習を進めることができるよう、各活動が設定されている。また小学校での学習内容を踏まえ、スムーズに中学校の学習に移行できるような配慮がされている。ストーリー性と対話を重視し、4人の中学生の生活を通して、自然な英語表現を習得できるような工夫がされている。登場人物になりきってセリフの続きを考える活動など、ストーリー性を生かした工夫が随所に見られる。また、友達や先生と対話しながら考えを深めることができるコーナーが設けられている。

川村教育長 英語については、採択地区協議会では光村図書の「Here We Go!」が選定されたが、山城地区では、東京書籍の「NEW HORIZON」を前回採択までの28年間使ってきた経過がある。4年前の採択では、この光村図書の教科書が採択されたところである。当時の代表調査員からは、「NEW HORIZON」をどう評価するか、調査員同士かなり検討した経過が報告された。「NEW HORIZON」の評価できる点は、長年使ってきたが故に使いやすいということがあり、また、よく作り込んでいる教科書だという評価がある一方で、内容が盛り沢山で消化し切れるかどうか、時間がないから教科書制作者が大事にしているものをどんどん省いていくような状況にならないだろうかという懸念が報告された。そういう中で4年前に「Here We Go!」に切り替えた経過がある。昨年の小学校の採択でも、中学校との接続性を考慮して、東京書籍をやめて光村図書の「Here We Go!」を採択している。

こういった経過からすると、今回の中学校の採択に当たっても、引き続き光村図書の教科書を採択することが、小学校からの接続性、また、中学校での継続性から見ても妥当ではないかと考える。今回も代表調査員からは、比較検討の中で、光村図書の「Here We Go!」が単元の展開で使いやすいだろうという点、今、総括指導主事からも説明があったように、3年間のストーリー性がある、その展開が

生徒に身近で、よいものになっているとの報告があった。

以上から、光村図書の「Here We Go!」が適切ではないかと私は思う。

### 【道徳】あかつき教育図書

総括指導主事 選定されたあかつき教育図書は、教材ごとに4つの視点が示され、導入用の動画や章末で使用するような動画が用意されていて、教材理解や考えを深めることができる。それぞれの教材では、最後に3つの視点から発問が用意されており、多面的・多角的に考えることができる工夫がされている。さらに、思考を深めるためのコラムが載せられている。また、「マイプラス」というコーナーでは、生徒が主体的・対話的に学び合い、重点的な課題について複数の教材を連続して学習できるように工夫されている。

井上委員 京都府教育委員会の観点と照らし合わせながら、私もあかつき教育図書がよいと思った。ただし驚いたのは、全国のシェアを見てみると、8社のうちの6番目の5%程度のシェアであり使われておらず、1位は東京書籍の34%、2位は日本文教出版の25%、3位が光村図書の16%となっている。

では、なぜあかつき教育図書がよいと思うのかという点を述べたい。

道徳の授業においては、基本的にオーソドックスな読み物の資料を読んで、子どもたちがその主人公になる、そこで道徳的な変容を体験させて、道徳の諸価値を経験させるという形が一つのパターンとなる。そのため、オーソドックスな読み物資料が十分にあるかということが、私が考える1つの観点なのだが、やはりあかつき教育図書がその観点に最も合致していると感じる。

特に、京都府教育委員会が出している冊子「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」は、学習指導要領を基にして、その読み物資料までの授業の進め方について非常に上手くま



とめてあり、私も現在テキストとして学生に道德の授業の仕方を教えている。初心者や道德の指導が苦手という人にとっては特によい冊子で、その流れを汲んだあかつき教育図書が、我々が今の時点で選ぶとすれば最もよい教科書ではないかと感じる。

このハンドブックは平成30年の資料なので、今後どうなっていくかは分からないが、少なくとも今回の採択についてはあかつき教育図書でよいのではないかと思う。

### 【全体を通して】

川村教育長 全教科、種目について総括指導主事からの報告を受け、委員のご意見を伺った。委員のご意見の中には、非常に突っ込んだものもあり、採択基準に沿った教科書の深い分析、実験の授業時間数を考慮したり、採択調査の在り方についてのご意見、そして教師の授業力向上の取組との関連など、いろいろな観点でご意見をいただいた。

2次元コードについても積極的に調べていただいたが、今や重要な評価ポイントになってきているかと思う。

また、色や見やすさ、使いやすさ、感性的な部分や、実用性の部分というものも評価すべきではということで、ご意見をいただきいた。

それでは、一括して採決を行う。

(採決 ー 全員挙手により原案どおり決定)

### (5) 事務局からの諸報告

総括指導主事 1 生徒指導報告について

#### (1) 小学校

7月の問題事象は1件。

不登校の児童数は12名。

#### (2) 中学校

7月の問題事象はゼロ件。

不登校の生徒数は46名。

小・中学校ともに前月からは若干減少しているが横ばいの状況である。全て家庭との連携は取れているが、夏休み明けや10月の運動会、体育大会にかけて増える傾向があるため、それを踏まえて学校では丁寧な対応をしてもらっている。

総括指導主事 2 重災害事故報告について

7月の重災害事故の報告は4件で、下校後の交通事故、ガラス破損によるけが、相楽中学校夏季大会での熱中症と、同大会中の過呼吸というものだった。

なお、今夏の大会における熱中症対策については、京都府の中学校体育連盟からの注意事項に沿って、地区ブロック大会においても対応され、大会運営をされていた。

総括指導主事 3 夏休み中の部活動の大会や、コンクールの結果概要について

運動系部活動では、京都府大会で優秀な成績を収めて近畿大会に出場したのものとして、精華西中学校の男子ソフトテニス京都府大会で2位に入賞し、近畿大会に出場した。また、陸上競技では精華中学校の男子3段跳びと女子走り高跳びと、精華西中学校の女子800メートルで、それぞれ京都府で3位までに入賞し、近畿大会に出場した。この3名は近畿大会でも入賞している。

また、学校の部活動ではないが、空手で精華南中学校から全国大会に出場している。

文化系部活動では、京都府吹奏楽コンクールにおいて、中学生の部小編成で精華西中学校が金賞を受賞して関西大会に出場し、また、東光小学校のアンサンブルも関西大会出場が決まった。

総括指導主事 4 令和6年度全国学力学習状況調査について

調査対象は小学6年生と中学3年生で、今年度は国語と算数・数学の2教科だった。本日は平均正答率の比較のみ報告する。分析についてはこれから行い、今年度も「華創」に掲載することで進める。

全国、京都府の平均正答率は公立の中学校で、京都府の数値は京都市を含んでいる。京都市を除く市町村の平均正答率と比較すると、精華町の子どもは全教科で全国平均、並びに京都府平均を上回っている。

精華町の子どもの結果は、まず中学3年生の国語が正答率61%、数学が56%。小学6年生は国語が69%、算数が71%となっている。

京都市を除く京都府の平均は中学3年生の国語で58%なので、精華町が3ポイント上回っている。同じく数学の京都市を除く京都府の平均は52%で、精華町が4ポイント上回っている。

小学6年生では、国語の京都市を除く京都府平均は68%で、精華町が1ポイント上回り、算数については京都府平均65%、精華町が6ポイント上回っている。

学校教育課長 1 町立山田荘小学校清掃業務委託者の転落事故について

7月29日に発生した事故で、山田荘小学校の教室窓ガラス清掃中に作業員が転落し、お亡くなりになったことは誠に残念なことであり、謹んでご冥福をお祈りする。

事故発生日時は7月29日の午後3時45分頃である。事故現場は町立山田荘小学校北校舎の南側で、町が発注していた委託業務において6月24日に委託契約を締結して、小・中学校8校について、各校内での作業を夏休み期間中に実施することとしていた。

事故の発生状況は、既に報道されているとおり、本委託業務を受託した業者の作業員4名により、教室窓ガラスの清掃作業中に女性作業員1名が転落した。午後3時45分頃、

北校舎の南側地上に倒れていた意識不明の女性作業員を探していた同僚が発見して、直ちに救急要請を行い、勤務中の小学校教員とともに、女性作業員の救命措置を行った。その後、現場に急行したドクターヘリにより午後4時35分頃、小学校グラウンドから病院へ救急搬送され、入院治療を受けておられたが、8月3日午後亡くなられた。

事故後の対応として、現在警察と労働基準監督署の調査が引き続き行われている状況であり、教育委員会としては、これら関係機関の調査に全面的に協力していく。

今後の対策として、警察や労働基準監督署等の関係当局の調査の進展や指導等を踏まえ、再発防止に向けて、高所作業現場における安全対策の徹底を図るために、委託による業務の発注者として取るべき対策について検討する。

なお、町全体としても、町長からの指示を受け、あってはならない事故との認識のもと、発注者として二度と事故を発生させないため、類似の委託業務の洗い出しと安全管理や業者指導の状況などの研修を進め、再発防止策の検討を進めているところである。

生涯学習課長 1 精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会における審査及び評価結果について

「むくのきセンター」をはじめとする体育施設の指定管理者である、精華町スポーツ協会、三幸グループ共同体による運営に対する評価委員会からの審査及び評価結果について報告する。

例年評価委員会では、各年度の事業実績について評価してもらっているが、令和5年度は、令和5年度から9年度までの5年間の第3期指定管理期間の初年度の評価となっている。

審査及び評価結果については、当該施設の管理運営業務に係る令和5年実績について、総合的に適正な管理運営業務が実施されたものと評価をいただいた。なお、今後の管理運

営業務がさらに充実したものになるよう、評価委員会から意見を付されている。

まず、評価した点として4点、①むくのきセンターの利用者が過去最高人数を計上し、自主事業も過去最高の事業数を計上するなど、創意工夫を凝らした実績を示されたこと。②SNSの活用などにより、これまで以上に情報発信の充実が図られたこと。③自主事業としてメンズクッキング教室を行うなど、ニーズと社会的意義を兼ねた事業を推進していること。④これまで課題であった施設の維持管理について、新たに共同体による体制を構築することで、施設の維持管理力や管理体制を向上することができたことを挙げていただいた。

次に、検討を要する意見としては、①利用者のニーズを踏まえた親しみやすい施設づくりを推進し、窓口対応の研修や施設利用のマニュアル化を図られたいこと。②施設の長寿命化につながる維持管理について、一層留意されたいこと。③施設の維持管理点検や職員研修等の充実を図るために、休館日の増加なども考慮し、対応を図られたいこと。④指定管理者と教育委員会が連携を深め、施設の老朽化や修繕対応の最適化を図り、共同体としての強みを最大限発揮されたいことの4点である。

以上が、評価委員会での評価結果だが、改めて令和5年度の指定管理業務の内容について説明させてもらう。

まず、施設利用状況だが、令和5年度のむくのきセンターの利用者実績は10万2,805人で過去最高の数字となった一方、打越台及び池谷公園多目的コートはおおむね横ばいだった。また、木津川河川敷多目的広場については令和5年6月から京都府施設としてふれあい交流広場の上部利用が供用開始されたこともあり、利用者数は減少している。

次に、収支状況だが、令和5年度の収入のうち利用料収入は1,900万円を超えて過去最高額となっている。また、自主事業収入も400万円を超え、こちらも過去最高額となっている。一方、支出は引き続き電気代など物価高騰が影響

し増加している。収入と支出の収支差引は123万8,667円の黒字となっているが、令和5年度の指定管理料は、電気代高騰対策として臨時的に200万円を増額していることから、この増額を除くと80万円弱の赤字となる状況だった。

次に、昨年度から指定管理業務を多角的に調査検証を行っていただくために、公認会計士に実地調査を依頼し、調査結果報告書を評価委員会へ提出し、評価の参考資料として活用していただいている。

このうち調査結果の総括として、指定管理者は施設の設置目的をよく理解し、施設をおおむね適正に管理運営していると認められるとの評価を受けた。しかしながら先ほど申し上げたとおり、令和5年度は120万円の黒字を計上しているが、指定管理料が電気代高騰対策のため臨時的に200万円を増額されており、これを除くと80万円弱の赤字になることから、収支改善の一層の努力が望まれるとされている。

また適時に改善を要する項目と、中長期的に改善を図りたい項目を、結果及び意見の指摘がされている。

会計及び金銭等の管理という面においては、個別的事項として、決裁規定の見直し、支出伝票の決裁漏れ、消費税額の誤り、預金出納帳の作成、以上について、それぞれ結果及び意見の指摘がされている。

次に、施設の開館利用状況の面においても、個別的事項として、展示コーナーの利活用について具体的な例示も示された上で、施設の魅力向上のための有効活用への検討を指摘されている。

なお、事業報告書における施設利用実績の記載誤りが指摘されているが、最終的に指定管理者から提出された事業報告書は、指摘を受けた正しい数字で提出されている。

また、利用者の満足度向上のため、飲食スペースの拡大等についての意見もいただいている。

次に施設及び設備の管理面についてだが、個別的事項のうち屋上等の排水溝の管理状況については一層留意されたい

こと、また、施設等の点検時間の確保のため休館日を増やすことでの対応も検討されたいことなどの意見をいただいている。

以上が、令和5年度の指定管理業務の事業報告と指定管理者評価委員会からの審査及び評価結果で、評価委員会からの意見を踏まえた今後の対応だが、まず1つには、指摘もあった展示コーナーを有効活用するため、令和6年10月から試行的に椅子や机などを設置して、飲食や談話が可能なスペースとして運用することを指定管理者と調整しているところである。

次に、施設の点検時間の確保のための休館日の追加に関しては、休館日は教育委員会規則で規定されていることから、利用者の理解を得やすい曜日にするなど、利便性にも十分配慮して、規則の一部改正を今後お諮りする予定としているので、よろしくお願ひしたい。

評価委員会からのその他の指摘についても、教育委員会と指定管理者が課題を共有し、親しみやすい施設運営に努めていく。

#### 【委員からのご意見】

松下委員 1点目は、山田荘小学校の転落事故に関して、ネットニュースや新聞でも報道されたので、子どもたちも多分知っていると思うのだが、今報告のあった管理的なことではなく、指導的な部分で子どもたちへの対応はどうだったのかということと、もし何らかの形で校長からも話があったとすると、子どものメンタルヘルスが少し気になるので、状況を教えて欲しい。また、救急救命の関係で、AEDは小学校に設置されているのか。

2点目は指定管理に関して、収支状況の損益額が昨年度はプラスという報告だったが、その処理をどうされているのか。

総括指導主事 山田荘小学校の子どもの状況だが、まず7月29日夜にネ

ットニュースが流れた。そして8月3日にもネットニュース、そして4日が新聞だったかと思うが、テレビでは報道されていない。夏休み中ということもあってなかなか様子も分からなかったが、事故を受けて、子どもや保護者から学校に何かの問合せ等や、あるいは子どもに心配するような変調があるといった情報はなかった。昨日始業式を迎えるに当たって、京都府にもスクールカウンセラーの緊急配置の要望を出していた。子どもの変調や、保護者のリアクションなどがなかったこともあって、初日には配置されなかった。

山田荘小学校のスクールカウンセラーと精華南中学校のスクールカウンセラーに協力をお願いして、始業式をどのように迎えようかという協議をした。始業式の朝、子どもたちが登校してきて朝学活までの間に、どのようなことがあるかということを見ようということで、担任の先生や、学校体制で注視したが、事故に関する声は全く出てこなかったとのことだった。

それを受けて、始業式では子どもに過度な負担や不安を与えないということで、始業式での校長の話は取りやめた。ただし、保護者に対しては学校だよりにおいて、この事故のことに触れている。

始業式の様子から子どもについては大丈夫と判断されるが、当日救急救命に当たっていただいた先生を中心にメンタルヘルスで少し心配をしており、そのことも踏まえて再度京都府にスクールカウンセラーの要請をし、本日、京都府から派遣されたカウンセラーを配置している。どちらかというと教員の話聞いて、教員のメンタルヘルスのケアに当たっていただいているという状況である。

教員は事故が起こったときにはAEDを持参して初期対応に当たった者が3名いた。

生涯学習課長

むくのきセンターの収支の関係だが、令和5年度が第3期指定管理期間の初年度となっており、前回の第2期については平成30年度から令和4年度までの5年間だった。第2期



の最後の2年間の3年度・4年度のみが記載されているが、3年度・4年度は赤字で、それ以前の平成30年度、令和元年、2年度は黒字を計上していたため、5年間のトータルでの損益累計で回っております。そのため3年度・4年度は赤字だが、それ以前の年度の黒字分によってこの赤字を補填することで、平成30年度から令和4年度の第2期の5年間トータルでは黒字を計上していただいているところである。

同様に、令和5年度の第3期の1年目は黒字を計上しているが、損益は第3期の通期累計で考えることで、来年度以降の運用に当たっていただく状況になっている。

#### (6) 後援関係

7月から8月にかけて受け付けた教育委員会後援事業は、総数8件、学校教育課関係はゼロ件、生涯学習課関係が8件で、8件すべてが社会教育係の担当のものとなっている。

#### (7) 9月の行事予定

東光小学校の修学旅行が9月13日と14日の日程で実施予定である。また、9月22日に相楽地方中学校新人陸上競技大会、28日と29日の2日間で、相楽地方中学校秋季新人大会が実施される。

委員に参加いただくものとしては、9月13日に大阪市内で市町村教育委員会研究協議会の開催が予定されている。

#### (8) 閉会

教育長が第8回教育委員会会議の閉会を宣言。